



ふるさと企業見学日帰りバスツアー 真庭の企業の魅力を発信

加工から塗装、組立、梱包の工程について説明を聞く参加者(ミック工業株式会社)



シェア世界一という話しに興味津々
(株式会社旭ポリスライダー)



若手社員との楽しい座談会に笑顔で質問
(銘建工業株式会社)

3月9日、市内企業の魅力を伝え就職に
なげることを目的とした「ふるさと企業見学
日帰りバスツアー」が初めて開かれ、市内の
高校生や県内外の大学生など17名が参加しま
した。見学先の3社ではそれぞれ会社説明や
施設見学、質疑応答があり、参加者は、働き
やすさや福利厚生などについて質問していま
した。また企業の若手社員は「未経験者でも
先輩が丁寧に教えてくれる。ぜひ入社して欲
しい」と自社の魅力をPRしていました。

**健康福祉3計画を市長に報告
共に支え合うまちづくりへ**

3月1日、市役所本庁舎で、福祉
の充実を目的とし、市民が参加する
ワークショップなどを経てまとめた
「第2次地域福祉計画」「第3次障が
い者計画」「第7期高齢者保健福祉・
介護保険事業計画」の各策定委員会
の代表が、計画について市長に報告
しました。福祉関連計画の上位計画
と位置付ける地域福祉計画では、産
業や都市計画など他分野との連携を
図りながら福祉分野の地域づくりを
進めていくこととしています。



地域福祉計画に関する報告書を手渡す山本委員長
(写真左から、永見副会長、作本会長、池田副委員長、山本委員長)



長野県や福井県などの先進事例についての話を聞く参加者

**真庭市農福連携を学ぶ会
農業と福祉の連携に向けて**

2月22日、市役所本庁舎で農業と
福祉の連携について考える「農福連
携を学ぶ会」が開かれ、農業者や福祉
事業者など約50人が参加しました。
講師の農林水産省農林水産政策研究
所の吉田行郷さんが全国の先進事例
を説明。また「多様な仕事がある農
業分野では、障害特性に合った働き
場所が見つかる可能性がある。農業
者と社会福祉法人などが連携し、障
がい者が活躍できる場をつくること
が大切」などと話されました。



市政に関する動きの一部を紹介します

3/19 防災や介護、産業振興で連携

防災力の向上などに保険会社として蓄積された情報やノウハウを活用し、安心安全なまちづくりにつなげるため、真庭市と損害保険ジャパン日本興亜株式会社が地方創生に係る包括連携協定を締結しました。



3/21 7月の開館が待ち遠しい

旧勝山振興局を改修して新たに設置する真庭市立中央図書館の完成見学会が開かれました。参加した市民ら約50名は、真庭産材をふだんに使った内装や明るい吹き抜け、親子でゆったり寛げるキッズスペースなどを見学しました。



市長室から
こんにちは!

公務員は誰のためのものか!

このところ、防衛省、文部科学省、財務省に係る情報公開や公文書の隠蔽、改ざんなどが大きな社会、政治問題になっています。

今回の森友学園の土地問題を巡る財務省の公文書改ざんは、通常では考えも及ばないような悪質で、犯罪の疑いがある組織的行為です。加えて、国民の代表機関であり国権の最高機関である国会まで騙すという、まさに民主主義に対する冒涇であり、事態は深刻です。

なぜ、そんなことまでするに至ったのか? 「公務員は誰のために」という根本を再確認する必要がありますし、公務員制度の本質をしっかりと理解しておきたいものです。

憲法第15条第1項に、公務員の選定と罷免は、「国民固有の権利」という規定がありますが、これは、すべての公務員を国民が選定することは不可能であるものの、任命には公正な手続が必須要件で、公務員の任免は究極的に国民の意思によるとの意味です。同条第2項には「全体の奉仕者」と規定しています。これは、公務員（一般職）に対し時の権力の利益のために特別な奉仕してはならず、政治的に中立であることを求めているのです。公務員が拝命時に憲法遵守署名をするのはこれに由来しています。

小さな自治体の真庭市においても、基本は同様です。当然ながら、職員は市長個人のためでなく、市民全体のために働かなければなりません。私がそのことを肝に銘じて職務を行うことが肝要で、このことを改めてお誓いします。これは、私利私欲を求めない私の人間としての矜持でもあります。



高校生と地域の大人たちが意見交換

3月3日、落合総合センターで「しゃべり場〜夢への懸け橋〜 これからの生き方を考える」やべり場が開かれ、市内の高校生と地域の大人たち39人が参加しました。この催しは市内の高校生に自分の生き方について様々な角度から考えてもらいたいと真庭市が初めて開きました。参加した生徒らはグループに分かれ「どんな大人になりたいか」などをテーマに意見を交換。人は「出会い」によって人生が豊かになるということなどについて学び、将来を考えるきっかけとしていました。



各グループで意見をまとめて発表

旭川サイクリングロード整備に向けた意見交換会
新たなまちづくりに向けて
3月8日、久世公民館で、平成27年度から4年間の計画で整備を進めている「旭川サイクリングロード」やその周辺のまちづくりに、学生や地域振興に関わる人など様々な市民の意見を取り入れるための意見交換会が開かれました。参加者は市担当者から整備ビジョンを聞いた後、グループに分かれ「老若男女が集まれる場所に」「コンサートやイベントを開催できるスペースを」など、積極的に意見やアイデアを出し合いました。